成田営農経済センターだより

令和６年３月

成田営農経済センター
TEL：0465-38-0131

【温州みかん】

施　肥　３月中下旬

〇特選みかん配合 655　160kg/10ａ　施肥後、軽く中耕を行いましょう。

※特選みかん配合 655 には 微量要素 が含まれています。

数年に一度は微量要素欠乏対策の為、特選みかん配合 655 を使用しましょう。

石灰資材の施用

〇顆粒タイニー　又は　苦土タンカル　200kg/10ａ

石灰資材をここ数年施肥していない園(又は、１～２月に石灰資材を施用していない園)では、根の活動が低下し、養分の欠乏をひきおこす可能性があるため必ず施用し中耕しましょう。

尚、春肥とは最低でも２週間以上あけてください。

病害虫防除　３月中下旬

〇かいよう病・そうか病対策

病斑のある枝葉は、新葉が出てくるときに感染源となるので、剪定時に取り除いて園内から持ち出し病原菌の密度を低くしましょう。

〇かいよう病

コサイド 3000　1,000 倍　100ｇ/100 ㍑（クレフノン 200 倍　500g/水 100 ㍑加用）

※マシン油乳剤と混用散布は避け、近接散布は最低２週間以上あけましょう。

※温州みかん園に中晩柑類(ネーブル・レモン等)が混植されている場合には防除を必ず行いましょう。

※この時期に散布できなかった園は４月上中旬にコサイド 3000　2000 倍　50ｇ/水 100 ㍑（クレフノン 200 倍　500ｇ/水 100 ㍑加用）又はイデクリーン水和剤 500 倍　200ｇ/水㍑（クレフノン 200 倍　500ｇ/水 100 ㍑加用）を散布しましょう。

【中晩柑】

不知火・はるみの剪定

主枝先端を明確にして、直径１cm ぐらいのところで切り返し、予備枝(坊主枝)を作り、新梢を発生させ樹勢の維持を行います。

翌年の結果母枝の確保のため、鉛筆位の太さの予備枝(坊主枝)を、亜主枝に対して１本設けましょう。

はるみは主枝先端部の切り返しを強めに行い、不知火はやや強めの切り返しにとどめる。はるみ程強く切り返す必要はない。

施　肥　　特選みかん配合 655　140 kg/10a　施肥後に軽い中耕を行う。

病害虫防除

はるみ・レモン・ネーブル等は、かいよう病に罹病しやすいので、湘南ゴールドの項を参照に防除して下さい。

『デコポン』の名称について

デコポンの名称は、熊本県果実連の登録商標です。「不知火」の果実は糖酸度に関係なく個人販売、JA 直売所において『デコポン』の名称で販売できません。

【湘南ゴールド】

選果

湘南ゴールド階級	2S	S	M	L	2L
横径　(mm)	40～45	46～50	51～55	56～61	62～67
温州みかん規格	4S	3S	2S	S	M

＊規格板は営農経済センターで取り扱い中です

剪　定

温州みかんと同じ開心自然型とします。しかし、温州みかん同様の剪定では強すぎるため、主枝や亜主枝を竹などで開張し、逆行枝、側枝の重なり枝の間引き剪定と下垂枝の切り返し程度に控え、樹冠内部に光が入る様にしましょう。

結実し始めた樹は弱剪定で樹形が乱れているので、剪定量を増やし樹形を徐々に改善しましょう。

施　肥　３月中下旬

特選みかん配合 655　140 ㎏/10a　施肥後に軽い中耕を行う。

収穫後

○かいよう病

ＩＣボルドー66D　100 倍　1,000g/100 ㍑（アビオンＥ1,000 倍　100g/100 ㍑加用）又はムッシュボルドーＤＦ　1,000 倍　100g/100 ㍑（クレフノン 200 倍　500g/100 ㍑加用）

発芽前であればアビオンＥ、クレフノンの加用は必要ない。

※病斑のついた枝は剪定時に園外へ持ち出す。ＩＣボルドー66Dはマシン油との散布間隔は 14 日以上開ける。

【レモン】

整枝剪定

特に若木は樹勢が強く花芽が付きにくいので、樹勢が落ち着くまでの整枝剪定は、整枝を主体とし、徒長枝や混み合う枝の間引きを軽く行う程度とする。また、花芽が着く春枝の先端は切り返さない。枝は立ち性で太く放置すると高くなるので、枝を下げ誘引する。

樹勢が落ち着いてきたら、徐々に剪定量を増やし、開心自然系にしていくが、樹勢が強いため、過度の剪定は徒長枝が多発し結果しなくなるので注意が必要です。樹幹内の枯れ枝は黒点病防除のため、常に除去するように心がける。

春肥施用（３月中旬頃）

特選みかん配合 655　160kg/10ａ　施肥後、軽く中耕を行う。

【ジャガイモ】

芽かき　地上部に出た芽が 10 ㌢程度に伸びたら、太い茎を２本残し他の茎を根元から取る。（特に春作）

追 肥・土寄せ　芽かき後、NK 化成 1kg/a を施し、株元に５㌢程土寄せする。半月後にもう一度ＮＫ化成 2kg/a と土寄せを行う。

※ジャガイモは種イモより上にできるので、イモに日光が当たり緑化しないようにしましょう。

※ただし、生育初期から多くの土を寄せると新いもの生育が遅れる。

【う　め】

施　肥　３月中旬

○梅配合　80kg/10a　(樹勢を安定させ着果後の肥大促進を目的)

病害虫防除　３月上旬～３月下旬

○かいよう病　　コサイド 3000　　2,000 倍　硬核期まで　50ｇ/100 ﾘｯﾄﾙ

（クレフノン　200 倍　500ｇ/100 ﾘｯﾄﾙ加用）

※この時期のかいよう病防除は重要防除になります。必ず散布し、加工果実を減らしましょう。

３月中旬～下旬

○アブラムシ類　スミチオン乳剤　収穫 14 日前　２回　2,000 倍　50ml／水 100 ﾘｯﾄﾙ　又は

チェス顆粒水和剤　収穫 21 日前　２回　5,000 倍　20g／水 100 ﾘｯﾄﾙ

○灰色かび病・黒星病　ポリベリン水和剤　収穫 30 日前　３回　1,000 倍　100g／100 ﾘｯﾄﾙ

※灰色かび病の防除適期は落弁期（花びらの 80%が散った時期）であるが品種によって開花時期が異なるので状態に合わせて防除する。

＜黒星病の防除について＞

黒星病の発生が非常に多くなっています！４月上旬、下旬、５月上旬の春先の防除が有効になりますので徹底しましょう！特に、５月上旬の防除をされていない園は、４月の防除に加え今年は必ず防除をするようにしましょう！

４月上旬　ベルクート水和剤　収穫 30 日前　３回　2,000 倍　　50g／水 100 ﾘｯﾄﾙ

４月下旬　ストロビードライフロアブル　収穫７日前　３回　3,000 倍　33g／水 100 ﾘｯﾄﾙ

５月上旬　スコア顆粒水和剤　収穫前日　３回　3,000 倍　　33g／水 100 ﾘｯﾄﾙ

＊２週間間隔で散布しましょう。

＊前年の被害枝は切除しましょう。

【キウイフルーツ】

施　肥　３月中旬

○キウイフルーツ配合 654　100kg/10ａ　（新梢の充実と初期肥大促進を目的）

病害虫防除　３月上旬（剪定後）

○カイガラムシ類　スプレーオイル　100 倍　混用

アプロード水和剤　収穫前日　２回　1,000 倍　100g／水 100 ﾘｯﾄﾙ

３月中旬（発芽前）

○キウイヒメヨコバイ　アグロスリン乳剤（劇）収穫７日前　３回　2,000 倍　50ml／水 100 ﾘｯﾄﾙ

○かいよう病　　IC ボルドー66D　収穫後～発芽前　50 倍　２ﾘｯﾄﾙ／水 100 ﾘｯﾄﾙ

※キウイヒメヨコバイの多発園ではこの時期防除することにより発生を減らすことができます。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

＜冬季のスクリミンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害防止の徹底について＞

今年は暖冬傾向にあり、スクリミンゴガイの冬期における越冬個体数の増加及び春期における被害が懸念されます。冬期の防除をしっかりと行い、スクリミンゴガイの被害防止・軽減をしましょう！

① 冬期の耕うん

厳寒期前にトラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速く、土壌を細かく砕くように耕うんすることで貝を物理的に破壊するとともに寒風にさらしましょう。効果を高めるために水分が少なく土壌が硬いときに耕うんをしましょう。

※本貝を別の圃場に持ち込むことを防ぐために、使用後のトラクターの爪等についた泥はよく洗浄しましょう。

② 水路の泥上げ

水路に堆積した泥の堀り上げや雑草の除去を地区全体で行い、泥を薄く延ばして寒風にさらす、見つけてつぶすなどして確実に殺貝しましょう。また、泥上げや雑草の除去で越冬場所や翌年の餌をなくすことができます。

令和５年産湘南潮彩レモン　集荷状況

令和６年１月「湘南潮彩レモン」を約５トン集荷いたしました！！

湘南潮彩レモンは、当 JA オリジナルブランドとして名称ロゴマークを商標登録しており、業者や市場から多く要望されています。

「湘南潮彩レモン」は令和６年５月まで集荷しておりますのでレモンを栽培している方は是非 JA へのご出荷をご検討ください！！

お問い合わせはお近くの営農経済センターまでお問い合わせください。

西湘はるみ米研究会　新規会員募集案内

平成 30 年度に立ち上げたこの研究会は、水稲「はるみ」を品質と食味にこだわって栽培し、研究会ブランド「さかわのめぐみ」の生産・販売に取り組んでいます。

活動内容：勉強会・圃場確認・土壌診断・定期総会等

募集期間：令和６年２月 19 日（月）～3 月 22 日（金）

申込方法：最寄りの支店又は営農経済センター（申込書は店舗に用意してあります。）

加入方法については以下の条件を満たす必要があります。

	必ず取り組む内容		３つ以上取り組む内容
必須条件	・栽培面積おおむね 10ａ（1 反）以上 ・種子更新率 100% ・圃場ごとの生産履歴の提出・ＧＡＰの取り組み ・調整は 1.8mm以上で行う。 ・元肥＋追肥体系	選択条件	・「土壌診断」「稲わらのすき込み」 ・「堆肥の投入」「春までに２回以上耕耘」 ・「ケイ酸肥料施用」 ・「化学肥料を県基準慣行の 30%削減」 ・「化学農薬を県基準慣行の 30%削減」 ・「地域の水利に合わせた適期の中干し」 ・「疎植栽培（50 株/坪以下）

詳しくはお近くの営農経済センターにお問い合わせください。